

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田中 美帆

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
北海道 羅臼町
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
PWS 羅臼シャチ調査実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 29 日 ~ 平成 28 年 7 月 4 日 (6 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生動物研究センター 山本友紀子
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習は、北海道羅臼沖でのシャチ野外調査のフィールドワークを通して、知床の海洋生態系について学び、海棲哺乳類の研究手法を学ぶことを目的として実施された。シャチの調査は、まず双眼鏡を用いて360° 広がる海洋上からシャチを見つけだすことから始まる。今回の実習で、この目視調査がいかに難しく根気のいる調査方法であるかを身をもって経験することができた。本実習の日程は以下の通りで、中4日間順調に調査船に乗ることができた。
6/29 移動：京都 - 羅臼 6/30-7/3 野外調査 7/4 移動：羅臼 - 京都
本実習は、観光船「はまなす」をチャーターし、実施された。船は二階建てになっており、二階には展望デッキがある。この展望デッキから双眼鏡を覗いて、シャチの大きな背びれを探す。これが実習として参加した私たちの仕事であった。二人一組になって展望デッキに上がり探すことになった。私と田島さんは、シャチを探すことのほかに、海況データもとることとなった。一時間に一度、船に積まれた測定器の数値や波高風力を記載する。記載項目は以下である。
・緯度経度・天候・風向・風力・光向・水温・気温・水深・海況
<b>6. その他</b> (特記事項など)